



少年藩主のお国入り

—松平春嶽と家臣たち—

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 平成17年3月1日(火)~5月8日(日)
(休館日3月17日・4月18日)

幕末の福井藩主松平春嶽(慶永)の少年時代に焦点を当て、新藩主への期待と春嶽の奮闘ぶりを紹介します。

■ 生い立ち

文政11年(1828)9月2日、江戸城内の田安邸に田安斉匡・礼以の8男として生まれました(幼名は錦之丞)。田安家は、徳川将軍の親族である御三卿(田安・一橋・清水)の一つで、初代宗武は8代将軍吉宗の次男にあたります。春嶽をめぐる血縁関係を見ると、11代将軍家斉は春嶽の伯父、12代将軍家慶は春嶽のいとこで、将軍家と深いつながりがありました。

■ 藩主就任

天保9年(1838)、福井15代藩主斉善(将軍家斉の子)の病没により、春嶽は11歳で越前家をつぎ、16代藩主に就任しました。11月23日、江戸城に登城して将軍にお礼の挨拶をし、江戸常盤橋の福井藩邸に移りました。このとき、将軍からは印籠や太刀のほか、極小の細工物を拝領しています。



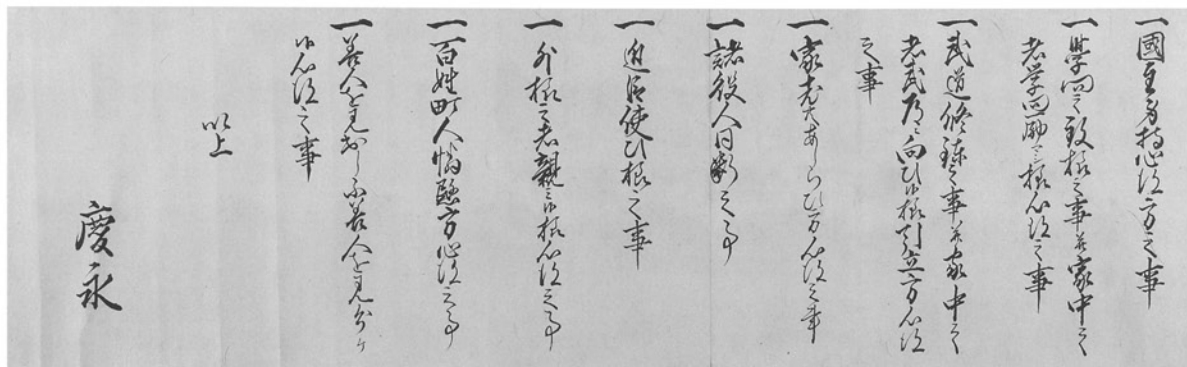
「将軍家より拝領の細工物(76点のうち)」

■ 新藩主への期待

当時、藩の財政は疲弊し、先代斉善が天保7年に提出した増高の嘆願書によれば、年々約2万6千両ずつの赤字で、古借と新借あわせて90万両の借金がありました。それだけに、新藩主への期待は大きく、君側にあった中根雪江をはじめ鈴木主税や浅井八百里などは、特に学問上から厳しい訓育にあたりました。少しの遠慮もなく直言に努め、春嶽もよくこれらの忠言にこたえたようで、このことが生涯の幸福であったと後に回想しています。

■ お国入り

天保14年5月、春嶽は16歳で初入国することになりました。江戸出発に先だって、尊敬する水戸藩主徳川斉昭を小石川の水戸藩邸にたずね、藩主としての心得(九カ条)について教を受けています。初入国した春嶽は、早速に領内を巡視して領民の生活や海防の実況を身をもって知り、重要課題に取り組むこととなりました。



「水戸藩主徳川斉昭への質問項目」

展示品目録

	資 料 名	員 数	所 蔵	備 考
	<生い立ち>			
1	松平春嶽写 千字文	1冊	春	
2	田安斉匡筆「聖像」の図	1幅	春	
3	堆朱小筆筍並びに小物類	1具	春	田安斉匡遺品
4	宣徳大手炉	1具	春	青松院遺品
5	松平定信筆 古歌手鏡	1帖	春	
6	一橋治済筆 和歌	1幅	春	治済は春嶽の祖父
7	徳川家慶筆「牡丹」の図	1幅	春	家慶は春嶽のいところ
8	白梅図扇子	1握	春	12代将軍家慶より拝領
	<藩主就任>			
9	松鶴鹿図金蒔絵印籠	1個	春	11代将軍家斉より拝領
10	御大切之御細工物	1箱	春	家斉・家慶より拝領
11	田安斉匡書状付松平春嶽添書	1幅	春	
12	領知判物写	1紙	越	
13	領知目録	1紙	越	
	<新藩主への期待>			
14	中根鞠負建白書	1冊	春	
15	浅井八百里密書	9通	春	
16	秘書	47通	春	
17	慶永公名臣献言録	1冊	春	
18	松平春嶽写 修身録	1冊	春	松平定信教訓書
19	松平春嶽写 魯衛之章思考	1冊	春	
20	松平春嶽筆 農業略記	1冊	春	
21	松平春嶽筆 経訓論説	1冊	春	春嶽の論説集
	<お国入り>			
22	徳川斉昭書状	1巻	春	九ヶ条回答書

*所蔵欄の(春)は「福井市春嶽公記念文庫」、(越)は「越葵文庫」の略。

見どころ講座「少年藩主のお国入り」

日時 3/13(日)午後2時～
 場所 講堂(2階)
 担当 西村英之(当館学芸員)
 定員 60人 当日受付

【次回の展示】(松平家史料展示室)

橋本左内を知っていますか
 5/11(水)～7/13(水)
 ■臨時休館日 6/20(月)

展示解説シート No.9 平成17年3月1日発行

福井市立郷土歴史博物館
 〒910-0004 福井市宝永3-12-1
 電話(0776)21-0489 FAX(0776)21-1489
 担当 西村 英之